

2月8日(月曜日)
ドル/円

1月雇用統計の結果を受けて乱高下

5日(金)の主な推移

NYダウ平均

10012.23ドル
(+10.05ドル)

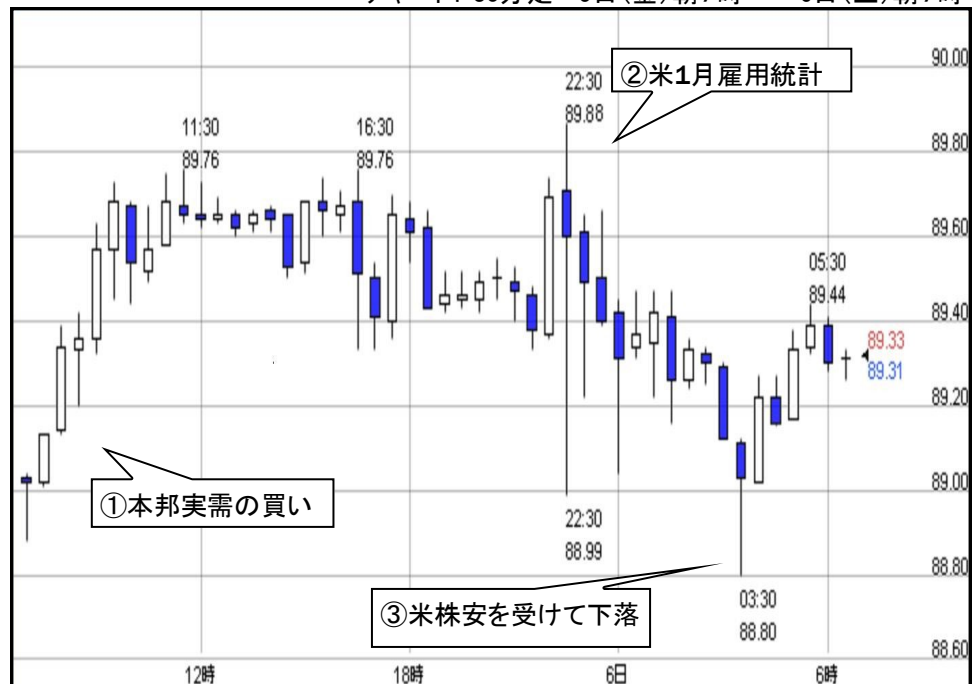
米長期金利
(10年債利回り)

3.5712%
(-0.0385%)

NY原油先物

71.19ドル
(-1.95ドル)

チャート: 30分足 5日(金)朝7時 ~ 6日(土)朝7時



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所:外為どっとコム

- ① 5・10日(ゴトービ)による仲値決済をにらんだ本邦実需筋からのドル買いが観測され、ドル/円は朝方の89円前半から仲値公示直後には89円後半にまで上昇。12時前には一時89.76円を記録した。
- ② 米1月雇用統計は非農業部門雇用者数が-2.0万人と市場予想の+1.5万人を下回り、発表直後は88.99円まで急落。しかし失業率が9.7%と市場予想の10.0%を下回ったことが好感されると、まもなく89.88円まで急反発するなど、値動きの激しい展開となった。
- ③ NYダウ平均株価が一時100ドルを超える下落となったことや、米長期金利の低下を受け、リスク資産圧縮の動きが出たことにより、クロス円の下落に伴いドル/円も下落。一時5日の安値となる88.80円まで値を下げた。その後ニューヨーク時間の引けにかけてダウ平均株価が下落幅を戻すと、ドル/円も89円台へと反発した。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加資金供給
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米経済の回復の鈍化
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・金融市場全体のドル売りムードの高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 88.60-90.00円

5日は1月雇用統計が強弱入り混ぜた内容となったことで、発表直後はドル/円が乱高下する場面が見られた。しかしその後は欧州の一部国における財政問題に市場の関心に移り、ユーロが売られる局面ではユーロ/円の下落に連れてドル/円が下落する場面も見られた。週末に開催されたG7では手がかりとなる材料が出なかったこともあり、特に取引の材料にはされていない様子である。

本日は注目すべき経済指標の発表や要人発言がないため、テクニカルや需給、株式市場などの動向が取引要因になると見られる。そのため、日・米の株安や欧州の一部国における財政の新たな問題が出た場合、直接的要因ではなくとも結果的にドル/円にてドル安となる場面が予想されるため、これらの材料には引き続き注意したい。

テクニカル的には、先週木曜日の急落以降、ドル/円は89.80円レベルで頭打ちとなる展開が続いている。雇用統計発表直後のドル急騰場面でも高値は89.88円までであったことから、まずはこのゾーンの攻略に注目したい。反対に下値は88.53円(2/4安値)が注目されよう。

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
			特になし		

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com